

日本福祉大学 21世紀COEプログラム
Working Paper Series, WP-2006-09-J

幼稚園と保育所の一元化施設に関する研究
- 保育制度の二元化の問題点に照らした施設の実態調査から -

キーワード：幼稚園と保育所、幼保一元化、「認定こども園」、少子化、待機児童

日本福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程 張 京姫

要旨：幼稚園と保育所の一元化に関する論議は第二次世界大戦前から行われたが、現在まで未解決の問題として残っている。子どもに行き届いた保育を平等に保障するという考え方から見た場合、保育行政の二元化の問題点として保育施設の適正配置、施設基準、保育内容、保育者養成などを指摘することができる。1970年代から二元化の問題点を乗り越え、子どもに行き届いた保育を平等に保障するため、幼保一元化施設を設立して運営している例がある。これらの施設が保育行政の二元化の問題点をどのように克服し、子どもに最善の利益を保障しているのかを実態調査を通して明らかにする。

最近、少子化と働く女性の増加によって、幼稚園と保育所を一体的に運営する例が増え、2006年から「認定こども園」が本格的に実施されるように法律が制定された。この研究は「認定こども園」の今後の方向を探る際のモデルとして、機能することができると思う。